

我等は茲に同志高尾平兵衛君の慘死を諸君の目に留めなければならぬ悲しみに際してゐる。先づ高尾君の實狀について、當事者の一人平岩巖君の手記を左に掲げる。

高尾君、×君、×君、僕と四人の同志が、溜池の赤化防止團本部を訪ふたのは二十六日の朝五時半頃でした。平素から新聞宣傳専門の臆病者である事を知つていた私共は「池貝工場の職工ですが是非先生の御盡力を願ひ度い事件が出来まして突然參上致しました。御寝み中恐れ入りますが何卒先生に御目に懸り度いのですか？」と申し込みました。受付の盡力で二階應接間に通されて約五分程待つて居りますと隣室から一人三十歳前後のアゴ鬚を蓄へた男が急に外出しました。私共は悪人米村某が早くも事情を知つて逃走したに違ひ無いと思ひまして二階から降りまして聞きました。此處では別人である事が分りました。そこで「工場へ出勤時間の都合がありますから、此處で立話して結構ですと申しました處書生が其旨を奥へ取次いだ様でした。暫くすると元兇米村某が寝著の儘で来ました。高尾氏は米村に向つて「御前は赤化防止等と言ふ看板を飯の種にして良心に耻じる事は無いか」と突然彼の首をさえて詰問しました。彼れは忽ち顔色蒼白となり死物狂ひで武者振り付いて來ました。高尾氏はその面部に一撃を加へました處、彼れは悲鳴をあげて應援を求めました。私も續げざまに彼れを擲り且つ蹴つて全く反逆の餘地無からしめたとき、奥より書生が二人出て來て米村を被はうとしましたが、×君が其處へ來て書生を引受けた爲めに、彼れは窮餘私達に「勘辨して呉れ」と叫びながら必死の勢ひで二階に飛び上りました。そこで私共は書生二人に諄々として彼等の非を説いた末「赤化防止などいふフザケたことをするか」と詰問した處、彼等は暫く眼目して居りましたが、「間違つて居つた」と改悛の色を現はして言ひました。その間隣室及び二階に寝てゐた團員十數名を不良少女のやうな女が（米村の妻女ならん）勇敢にも起して歩いてゐたが誰れ一人起き出づる者はありませんでした。高尾氏の行動が勇敢を極めた爲め、敵をして畏怖せしめたものであると信じます。此の亂闘によつて窓硝子の全部は破壊され、其他の器物も多く打ち壊されましたが、その殆んど總ては、高尾氏の肉弾によつて破壊されたものであります。敵は既に姿を見せず、膺懲の目的は充分に達しましたから、高尾氏の發言に基き其處を引あげました。そして約十間ほど歩いたときでした。私達が引あげる少し前からピストルの音が聞かれましたが、どうせおんな意氣地無しのことですから、ホン氣にやれる筈はないと高を括つて其處を去りました所、逆上した米村は、戸外に出て私達の後方から亂射しました。先頭に高尾氏と並んでゐた私が、高尾氏を顧みて「打つてゐない」と言ひました所、彼れは後方を振り返へりながら「フ、ン」と微笑しました。それから二足か三足目でした。突然高尾氏が前のめりに倒れたので、私は跪いたのかと思つて、「起きなくては駄目ではないか」と問ひかけました。足が打たれたらしい×君も側へ駆けつけ、うはづり、急には言葉も出ませんで、足を打たれたらしい×君も側へ駆けつけ、私と一緒に彼れを抱きながら、「平公しつかりしろ」と耳に口を近づけて叫びました所、僅かに口を動かして「残念だ！」「上杉と高島をやらなかつたのは残念だ！復讐は他の同志がきつとやつて呉れることを信するぞ！」と低い聲ながら明白に言ひました。その他「武器がある……武器がある」といふやうな言葉を二度連發しました。が、それきり何も言はず、また言ふことが不可能に陥つたやうでした。私達は高尾氏を背いで約一丁程離れた某家へ到り、一時保護方を依頼して×君を殘し、私は醫者を呼びに行きました。高尾氏の鮮血に染つた私の姿を見て、醫師方の者達は顔色を失ひ取り合つて呉れない爲め、更らに他へ走りましたが同様に合つて呉れませんでした。それで高尾氏の側へ引返したのですが、既に多勢の人間がその場をとり圍んで居り、やがて醫師も來たやうですが、私は一先づ失踪する必要を感じ其處を立去りました。他の×君等も多分同様の行動をとつたものと思はれます。

以上は、當時の事實をありのままに記述したものです。

全國の同志及び労働者諸君！

同志高尾平兵衛氏は壯烈なる社會戦争の偉大な犠牲者として仆れた。彼れはその熱血を以て社會運動の十字塔を建立した。我等は高尾氏の勇壯果斷たる精神、牢固として鐵石の如き革命的精神を學ばなければならぬ。決死！唯それのみが革命運動者たるの資格である。そしてその完全なる資格を、唯一人高尾平兵衛氏の胸裡に見る。我等は高尾氏の精神に成果あらしめねばならぬ。彼れの行動を繼ぎ、彼れの行動に光輝あらしめねばならぬ。高尾氏は生前に言つた「アナキズムもホルセグイズムも戦線内部の争ひではないか。敵に對抗する爲めには黨派利己心や黨派感情を捨て、階級的に一致せよ。そしてその一致を破る一切の團體を膺懲し打破せよ」と。

全國の同志及び労働者諸君！  
全國の一致を以て、高尾氏の教訓の前に起たうではないか！